

自己評価(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”お元気で明るく楽しく心豊かに過ごしましょう”職員が理念に沿ったケアを実践する様に努めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での行事に参加し住民の方たちと交流を図る又事業所で主催する秋祭り等に地域の方々を招待し交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者も地域活動に参加して頂き地域の方々との交流によって認知症への理解を深めて頂く。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、会議での意見等に対し真摯に受け止めできる事は実践できる様に努力している。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービス連絡会への参加や介護相談員の来訪に於いて気付いた事をアドバイスして頂きサービスの向上に努めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について正しく理解し、現状では行わないことを徹底しているが、今後も様々なケースへの正しい対応ができるよう、更に認識を深める必要がある。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加し、受講報告により職員全体の意識の向上に努めている。		

グループホーム津田沼 自己評価(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の資料を職員に配布するなどして、理解を深めるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族が納得し不安がない様説明し理解が得られる様に努める。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族会の実施や面会時の声かけなどで、積極的に家族の意見を聞ける様に努めている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも職員が自由に発言できる雰囲気づくりを心がけており、運営に意見を反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は管理者や職員の努力や実績、勤務状況などを常に把握するように心がけており、各自が向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者はマニュアルに沿って指導を行い、年間計画に基づいて内部研修を行っている。職員の段階に応じて外部研修にも積極的に参加し、研修後は他職員に伝達している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護サービス向上連絡会や他施設の現場訪問などで、意見交換や交流する機会を持ち、職員が同業者と直接的な交流を深め、自らの業務を振り返りサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで、困っていることや求めていることなどを、必ず本人から直接聴き受け止めるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間をとって、家族の意向を聴くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、ひとまず在宅において必要な介護サービスが活用できるように支援するなど、他のサービスの利用も視野に入れた対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得られた個人情報をその人らしい暮らし方や力の発揮に活かし、共に支えあう関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に、家族との情報の共有を心がけ、常に共に支えあう関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人との繋がりを保てるように、電話や手紙などの通信支援を行ったり、家族や知人などの訪問の際には、居心地の良い雰囲気作りに努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の良い関係づくりや、それぞれの力・個性を活かせるように配慮し、必要に応じて声かけを行い支援している。		

グループホーム津田沼 自己評価(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、継続して関係が保てるように、その後の様子を尋ねたり相談を受けた際は誠意を持って対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者それぞれに合わせて、コミュニケーションを図り気持ちを受け止めて、希望を暮らしや支援に活かすようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族からコミュニケーションをとり、細やかに情報収集を行い、入居者の全体像を把握し、ケアに活かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に本人・家族・職員間で情報を共有するようにして、入居者一人ひとりの現状を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・必要な関係者などと話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させて、現状に即した介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、健康状態や暮らしの様子、ケアの内容や身体状況等について記録して、職員間の情報の共有や介護の実践、計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望によりデイサービスを利用することができたり、同社の他施設の入居者とも、折にふれて交流を楽しめるような機会を持つなど、本人の意向を汲み取り生活がより豊かになるような支援やサービスを心掛けている。		

グループホーム津田沼 自己評価(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者がどのような地域資源と関わっているのかをよく把握するようにして、関係を促進していけるように支援している。また、入居者の安否の見守りや日常生活を支える存在として、地域資源に働きかけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関を個別に決めている。協力医療機関とは別の病院への受診を希望する場合には、事前に必要な情報を提供し、受診結果は事業所側も把握するようにしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師により、入居者の状況を十分把握し、医療を受けることに関して適切な助言が24時間可能な体制である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時や検査受診時には職員が介助し病院との連携に努める。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族等に「意志の確認書」等で入居時や必要時に意向を確認し、医師の助言も得ながら方針を決め、全員で共有して支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてのマニュアルを作成し、職員の周知徹底に努めているが、今後も継続的に知識・技術の習得に努めていく必要がある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設では定期的に避難訓練を実施、又地域での防災訓練に参加し協力体制を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を重視しその方に合ったケアを実施している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望や嗜好・関心を見極め、それをもとに本人が選びやすい場面づくりをし、自分で納得しながら暮らせるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者の生活ペースや、不安や混乱を起こしやすい時間帯を把握して、業務優先ではなくなるべく入居者と向き合うように工夫している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合ったおしゃれや個性を大切にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は、楽しい雰囲気づくりを心がけ、準備や片付けなどにも楽しみながら参加できるようにしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量については、チェック表を作成して把握して個々にあった支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの徹底及び個人の口腔内の状態を把握することに依りその方に合ったケアを実施している。		

グループホーム津田沼 自己評価(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	レベルの低下にならないように考慮しながら、個々にあった排泄支援を行っている。人前での声掛けをしないなど、プライバシーに配慮している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェック表を作り、排便のペースや間隔・量などの把握に努めている。また、適度な運動や繊維質のメニューなどを取り入れたり、水分摂取にも配慮している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については曜日や時間帯を設定しているが、入居者の希望やタイミングに合わせて楽しめるように柔軟に対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、生活のリズム作りを心がけている。不眠の場合は原因を探り、それに合った援助を行う。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理表により、薬の内容が把握できるようにしている。また、服薬チェック表にて誤薬防止に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の持ち味や個性・嗜好を把握して、日々の生活の中で何らかの役割を担えるように努めている。張り合いや楽しみを見出し気分転換が図れる		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出の機会を多く持つようしており、普段は行けないような場所への外出についても可能な限り希望がかなえられるように支援している。また、近隣の行事にもできるだけ参加するようになっている。		

グループホーム津田沼 自己評価(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族とも相談し、お金を所持することの安心や自信、買い物をする楽しさを味わえるようにしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>今までの関係を大切にして、手紙や電話のやり取りができるように、積極的に支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な温かみのある雰囲気と、入居者にとって暮らしやすい環境を重視している。写真や掲示物を工夫して、清潔感や季節感を大切にした居心地のよい共用空間づくりを目指している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>屋内のみならず、芝生の庭にも椅子を設置し、自分の好きな場所で独りになったり、気の合う利用者同士で自由に過ごせるような環境づくりをしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>住み慣れた家で使い慣れた品や大切にしていた物を居室に持ってきて家庭的な雰囲気が出る様に工夫する。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全面に配慮し自分が暮らしやすい環境を作れる様に支援している。</p>		